

白鷺教育会

姫路支部だより

令和4年12月10日発行・発行人 芦田 守

人 権 教 育

白鷺教育会姫路支部 原田 貞雄



令和5年4月に「姫路市立あかつき中学校」という夜間中学が開校されます。現在、姫路市教育委員会はその開校に向けて諸準備に全力で取り組んでおられます。心より感謝申し上げます。

夜間中学と言いますと、10代から80代までの色々な生徒を相手に鼻毛を抜きぬき西田敏行が人生を語る映画「学校」を思い出される方も多いかと思います。私は現職時代、この夜間中学の必要性を感じる場面が何度かありました。卒業式を終えた日の午後校長室で行った第二の卒業式や自宅玄関前での卒業式など、十分に関わりがもてないまま別れることになってしまった子どもたちがいたことです。また、混乱を避けて命からがら日本にたどり着き、通訳とともに娘や息子を連れて学校に来た母親、その母親自身の生活と家族を案じた記憶は今も鮮明に心に残っています。

数年前より、私は学校や地域での人権教育に微力ながら取り組み始めました。人権教育はすべての人が自己実現を果たし、幸せな人生をつかみとる教育だと思っています。この教育の素晴らしさを感じれば感じるほど、色々な事情で教育を受ける場を逸した人の残念さや無念さを感じるようになりました。そして、どうにかして教育を受ける機会を用意したいと考えた時に夜間中学にたどり着きました。姫路に最も近い夜間中学は神戸市須磨区にあります。姫路から仕事が終わってからの夜道を片道1時間以上かけて通学した方の存在も知りました。

その後、「教育機会確保法」の制定という時代の流れもありましたが、県や市の多くの方々のご理解とご努力により4月がやってきます。「姫路市立あかつき中学校」が、色々な理由で学齢期に通学できなかった幅広い年齢層の方々や自国で教育の機会が得られなかった方々の学びの場となり、自己実現の場となることを願っています。そして、すべての方にとって姫路が魅力ある地になることを願っています。

令和4年度 現職教員研修講座報告

教育技術が進歩しても、教育の原点は「教育は人なり」

本年度も四つの講座を実施しました。今回「小学校外国語教育入門講座」においてアンケートを実施したところ「今、特に研修を深めたいこと」の質問では、7割以上の方々が「ICTの活用やタブレット型端末などの活用」などについて希望されていました。これは、科学の進展に伴い教育技術も、AI（人工知能）教育、IT（情報技術）教育、そしてICT（デジタル化やインターネットなど情報通信技術）教育とどんどん変化してきている現れでしょう。現在では、さらに学習用PCと高速ネットワーク環境の整備、デジタル教科書やデジタルコンテンツの利用促進、ソフト面の充実などをめざす「GIGAスクール構想」が進められています。

しかし、どのような時代になり科学技術がどんなに発達しても、子どもの豊かな人間形成には人、教師が不可欠であると言われる「教育は人なり」は教育の根本原理です。私たちは、今後とも新しい教育技術の進歩を把握するとともに、「教育は人なり」である先生方の指導力向上をめざした研修講座を計画実施していきます。

(研修部 谷口 和良)

教職特別講座(小・中臨時講師)

教職基礎講座「教師力を高める」

講師 川渕 博祥 先生(元校長)

於：城の西公民館

4月30日(土)

今回初めて白鷺教育会主催の教職特別講座に参加しました。この講座では、姫路大学教育学部の川渕先生が講義をして下さいました。教員採用試験の対策や取り組み方、教師に求められる資質や能力など、採用試験に臨むにあたって大切なことをたくさん教えていただきました。なかでも、集団面接では自分の意見ばかりを主張するのではなく、相手の意見にどう被せていくのかが重要だということを理解しました。また、兵庫県の採用試験問題の傾向を分かりやすく教えてください、今まであまり意識していなかったところが改めて分かり、もっと勉強の仕方を見直していこうと思いました。自分が採用人数に入る気持ちで、また「今年は必ず合格する」という覚悟をもって取り組んでいきたいです。普段、なかなか仕事をしながらこういった研修に参加できずにいましたが、今回この講座に参加できて本当に良かったです。また、他の講座があれば積極的に参加したいです。

(姫路市立広畑中学校 臨時講師 幸長 真実)

学級経営講座(小・中学校)

「子ども理解による学級経営」

講師 梶原 潤一郎 先生(元校長)

於：城の西公民館

7月28日(木)

私は、この研修を通して学級経営の大切さについて学びました。近年、SNSを起因とするトラブルやいじめ、それに伴う問題行動や不登校が増加しています。そこには少なからず発達障害が関係している場合があることも理解していました。このような子供達の困り感に気付いたり多様な背景を知ったりするには、アンテナ意識を高く持つとともに、普段からどのように子供達と関わるかを考えておくことが大切です。また、ASDやADHD、LDなどの発達障害のある子供に対しては、その子自身の出来ることや特性をしっかりと把握し、どのような支援が必要であるのかを見極め、保護者と意思疎通を図り、目標や支援計画を立てることが大切です。今回の講座を受講し、改めて私は、目の前にいる子供達一人一人に寄り添って、共に成長し合えるような学級をつくりたいと思いました。そのためには、普段から子供達と話しやすい雰囲気をつくっておくこと、分かりやすい授業をつくっていくことを更に意識していきたいと思います。

(姫路市立谷内小学校 教諭 三宅 千穂)

学校運営学習会(小・中学校)

管理職講座(法規、理論)「学校の運営と経営を考える」

講師 尼子 尚公 先生(元校長)

矢内 至 先生(元校長)

於：イーグレ姫路

8月5日(金)

8月19日(金)



学校運営講座では、「学校安全と危機管理」「教育と法規」をテーマに2回にわたり受講させていただきました。2講座とも、普段の仕事では理論的に意識することが難しい事柄ですが、わかりやすくご教示いただき頭の中を整理することができました。また、「ライブ講義でしか聞けない」体験談や

実践事例を交えたお話は大変興味深く、闊達な意見交流がなされるなど、オンラインにはない対面講習ならではのものだと感じました。リスクマネジメントについては、「悲観的に準備し、楽観的に対応する」「七鬯（ひちょう）を喪（うしな）わず」「大難は小難に、小難は無難に」といったキーワードに表されるように、現場のリーダーとしての姿勢が問われるのだと思いました。法規を学ぶことは、国、県、市の施策（ミッションやポリシー）を正確に理解し、公平性や信頼を得るためのコンプライアンスとして、規則だから守らせるのではなく、その意味を解釈し運用するために重要なのだと実感しました。白鷺教育会の皆様には、貴重で温かい研修の場を用意していただき、本当にありがとうございました。

（姫路市立余部小学校 主幹教諭 石垣 智宏）

「必要に迫られ仕方なく学ぶ」これが教育法規に対するこれまでの私の姿勢でした。2年前、教頭試験前に研修会に参加しました。そこで、わからないことをわからないと逃げているよりも、わからないことを自覚するために研修に参加することが大事だと感じました。その思いを基に、反復あるのみ！と参加した今回の研修会でしたが、講師の矢内先生が、明るく朗らかな語り口調で、時に冗談を交えながら、他の受講者にも問いかけながら進めてくださったので、終始前向きに学ぶことができました。スマホで簡単に法令検索ができること、具体的な疑問に答える形式のわかりやすい書籍があること、法規を学ぶことで諸問題にも落ち着いて対応でき、自分・職員・学校を守ることができるということ等、多くのご示唆を頂きました。子供の未来のため、明るい世の中にするためと思うと、苦手な法規の勉強も頑張ろうと思えました。やはり教育の道に近道はありません。一つ拾えば一つだけきれいになる。今後も苦手な教育法規を学び続けます。

（人権教育課 指導主事 渡邊 雅人）

授業改善講座（小学校）

小学校外国語教育講座「ICTを活用した外国語教育」

講師 姫路市立八幡小学校 主幹教諭
兵庫教育大学大学院非常勤講師
岡本 真砂夫 先生

於：姫路市教育会館
8月6日（土）

昨年まで図工・家庭科の専科指導に携わった後、4月の転勤により7年ぶりに3年生の学級担任となりました。これまで外国語の指導経験が全くなかった私はたいへん戸惑い、手探り状態での1学期間でした。今回の授業改善講座のテーマに、「ICTの活用」が含まれていたこともあり、更に高いハードルの受講となるだろうと予想していました。しかし、講師の岡本真砂夫先生の優しく丁寧な語り口と実際にスマートフォンをタブレット型端末に見立てての実技演習によって、たいへん分かりやすく学べました。KahootやBlooketといったアプリを使ってゲーム感覚で英語に接する体験は、これまで英語が苦手だった私にとっても楽しく、ぜひこの楽しさを子供たちにも味わわせてあげたいと思いました。また、学期末の評価にも必須となるインタビューテストの手法と留意点が学べてとても実践的な講座でした。今回の経験を生かし、子供たちと一緒に楽しめる授業づくりを心がけていきます。

（姫路市立城西小学校 教諭 鎌田 寿江）



令和4年度「退職者交流会」(本部主催) ~令和4,10,27~

「東井義雄先生のあしあとを訪ねて」

(魚住 妙子)

令和2年度に「白鷺教育会120周年記念行事」の一環として計画されていた「退職者交流会」が3年ぶりに実施されました。

姫路駅南(姫路支部8名)から加古川駅、道の駅神河を経由して29名が乗車したバスは、但東町を目指しました。朝来の辺りでは雲海が広がり、竹田城の幻想的な姿を見ることができました。

但東庁舎では、南・西但馬支部会員12名が合流し、2階の会議室で東井義雄先生の最後の教え子で「東井会」2代目会長の衣川清喜様と「東井義雄記念館」5代目館長の升田敏行様の講話をお聞きした後、2班に分かれて1階の「東井義雄記念館」を見学しました。



年譜や教師時代のエピソードのパネルが壁一面に展示された記念館は、ガラスケースに「培其根(ばいきこん)」誌や書簡、色紙や遺品等が収められている「展示室」と、床から天井までの作り付け本棚に先生の蔵書2750冊・著書140冊・論文等掲載雑誌900冊等々が収納されている半円形の「蔵書室」からなっています。充実した内容に圧倒されると同時に、平成3年4月に先生が逝去され、平成6年7月にこの記念館が竣工していることから「日本のペスタロッター」と呼ばれる所以が腑に落ちました。

あつという間に時間が過ぎ、楽しみにしていた昼食は「出石の皿そば」です。一人前は5皿ということでしたが、私は4皿あたりでもう満腹でした。

午後から、出石町の散策です。まずは「豊岡市立美術館 ー伊藤清永記念館ー」へ。学芸員さんから、「伊藤清永画伯は、出石町出身で文化勲章受章の洋画家です。この美術館には、伊藤画伯をはじめ郷土出身の画家や豊岡市ゆかりの芸術家の作品を広く収蔵しています」と説明がありました。その後、三々五々街並みを散策し、帰路につきました。



「秋の日は釣瓶落とし」の諺通り、姫路駅前

に到着した18時過ぎは、もう真っ暗でした。3年ぶりに実施された「退職者交流会」。偉大な先輩の足跡に触れると共に会員同士の交流も図れました。お世話いただいた厚生部の先生方と青田事務長に感謝申し上げます。

物故者のお知らせ (40号以降)

関 孝夫(昭16) 令和4年7月 縄 昭三(昭35) 令和4年8月

加藤 俊三(昭25) 令和4年8月 宮下 徹(昭45) 令和4年9月

井貫 正義(昭38) 令和4年10月

謹んで哀悼の意を表します



姫路支部会員数 615名 (R 4,10,1 現在)

編集後記

新型コロナの感染は終息したわけではありませんが、今年度は、すべての現職教員研修講座も盛況で、また退職者交流会も3年ぶりに実施され、ようやく白鷺教育会が本来の活動に戻った感があります。さらに来年度に向け、「姫路市立あかつき中学校」の開校準備が着々と進んでいることをお知らせすることができました。今後もよりよい機関紙発行に努めます。

(広報部 藤井三津子 坂田紀子 田口純子 矢内 至)